



## V奪還！ ラッパ吹奏

6/28 松本消防協会ポンプ操法・ラッパ吹奏大会

松本消防協会主催のポンプ操法・ラッパ吹奏大会が6月28日、塩尻市の中央スポーツ公園などで行われました。市消防団からは4チームと音楽喇叭隊が出場。日ごろの鍛錬の成果を競いました。結果は、小型ポンプ操法では第4分団（豊科）が2位。第1分団（豊科）が3位。ポンプ車操法では第13分団第1部（堀金）が2位。ラッパ吹奏は、昨年3連覇を果たせなかった悔しさを見事に晴らし1位を奪還。8月2日に須坂市で開かれる県大会に出場します。



## 「ティフトン」で 校庭を緑に

6/14 穂高西小で芝生化試験

市教育委員会は6月14日、校庭芝生化の試験事業として、穂高西小学校の校庭に芝生を植えました。この日は、児童やPTA、地域ボランティアなど約200人が参加。約3千平方メートルの校庭に50センチ間隔で芝を植えました。この芝は繁殖力の強い「ティフトン」という品種で、ポットから植えるため、導入経費が低いのが特徴。8月下旬には一面に広がる予定で、水やりなどの管理は、地域ボランティアが中心に行う予定です。

## 言葉にしよう 垣根を越えよう

7/4 男女共同参画フォーラム

市男女共同参画フォーラム（市主催・市男女共同参画連絡協議会共催）が7月4日、豊科ふれあいホールで開かれました。条例制定の経過報告のほか、寸劇やシンポジウムが行われ、約200人の来場者が男女共同参画への理解を深めました。

寸劇では、同協議会の役員ら約20人が、安曇野で女性リーダーが増えている現状を、方言をふんだんに織り交ぜ、親しみやすく演じました。

またシンポジウムでは、21世紀職業財団長野事務所長の宮本照子さんをコーディネーターに迎え、3人のパネリストが、実践面で必要なことなどを話し合いました。参加者からは、「言葉に出すことが大切」。「『ありがとう』という言葉は、言われても、自分から発しても満たされる」といった声が聞かれ、最後には「お互いの垣根を越えるために、コミュニケーションを取り、とことん話し合うことが大切」とシンポジウムをまとめました。市と同協議会では今後、連続講座や講演会を開催し、取り組みを広く呼び掛けます。



## 雨上がり ハナショウブ映える

6/21 信州安曇野あやめまつりメインイベント

第25回信州安曇野あやめまつりが（実行委員会・観光協会主催）が6月13日から28日まで、明科あやめ公園・龍門淵公園で開かれました。

メインイベントとなる21日は、朝からあいにくの雨となりましたが、午後になると晴れ間が広がり、大勢の見物客が水滴をまとった白や紫色のハナショウブに見入っていました。また、この日は恒例のニジマスつかみどりや地元の音楽愛好者による演奏、ラフティングボート体験なども行われ、県内外から訪れた約1万人の観光客が、初夏の1日を楽しんでいました。

あやめまつりは、旧明科町が町制30周年を機会に「あやめの町」を宣言したことがきっかけとなり、住民による手づくりの記念イベントとして生まれました。近年では他地域の市民も多く参加し、アヤマがつなぐ人の輪は、年々広がりを見せています。



## 続編への意欲語る

6/12 「水色の時」原作者・石森史郎さん来訪

市も舞台になり昭和50年に放送されたNHKの連続テレビ小説「水色の時」の原作者で脚本家の石森史郎さん（77・東京都立川市）が市内を訪れ、6月12日、当時撮影で使用された道祖神が置かれている公園の前で、市長と対談しました。石森さんは「わさび田へ来たのは当時以来。この題名が浮かんだ時に見た水の色が、今も変わらずにありました。時の流れも感じますが、ドラマのその後を今の安曇野でぜひ作りたい」と話しました。この訪問は、今後、市が進める新たなブランド戦略作りの1つとして実現したものです。



## 声掛け合う環境 みんなの手で

7/1 明るい社会を目指して街頭啓発

「社会を明るくする運動」、「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」に併せて、7月1日の朝、市内12カ所で街頭啓発が行われました。堀金保育園前では、保護司会や教育関係団体の関係者17人が参加。「おはよう」と声を掛けながら、登園してくる親子らに電話相談の窓口が記載されたティッシュを手渡しました。

また、堀金地域では7月11日に堀金総合支所別館で、「作文発表を通して社会を明るくする会」を開催。約30人の子どもたちが、あいさつや声を掛け合うことへの思いや願いを発表しました。